

都市再生整備計画

みのおしなんとうぶちく
箕面市南東部地区

おおさかふ みのおし
大阪府 箕面市

平成25年11月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大阪府	市町村名	みのおし 箕面市	地区名	みのおしなんとうぶちく 箕面市南東部地区	面積	551 ha				
計画期間	平成	23 年度	～	平成	25 年度	交付期間	平成	23 年度	～	平成	25 年度

目標

大目標：歴史文化と住民交流・国際交流の結節点を活かしたまちづくり

□地区の特色である歴史文化と国際化を活かし、子育て世代からシルバー世代、新旧住民も外国人市民も、みんなが交流できるまちづくりをめざす。

■目標1：歴史と国際色豊かな地域特性を活かし、地域の新旧住民や多様な文化背景を持つ市民が交流することで、地区の魅力を高める。

■目標2：地域における住民活動を通して、子育て世代からシルバー世代まで、すべての世代の活性化を促す。

■目標3：歴史ある鎮守の森を核とする緑地を保全し、親しみある空間として整備することで、まちに対する愛着と誇りの意識を高め、住民交流の活性化を図る。

■目標4：地域での住民活動の発展に対応できるよう既存施設に地域交流機能を追加し、地域交流拠点として幅広い住民活動の支援を実現する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

■市南東部地区は、市域南部を東西に貫く旧西国街道沿いに、古くからの道標や旧家の佇まいが今も散在する歴史のまちである。

□地区東部は、土地区画整理事業による宅地整備の完了により瀟洒な街並みが形成され、子育て世代の流入が見込まれるとともに、大阪大学箕面キャンパス(旧大阪外国語大学)、千里金蘭大学、関西学院千里国際、彩都といった文化学術や研究開発、国際交流の核に位置する市街地であり、北大阪においても抜群の国際色豊かな地域である。また、大阪モノレールの駅近くであり、人の流動、特に学生など若年世代の動きが活発である。

□地区西部は、緑豊かな農地が隣接する良好な住環境から、市の他地区に比べて人口増加、特に子育て世代の増加が顕著である。さらに平成30年に予定されている北大阪急行延伸により新駅が設置され、飛躍的な発展が見込まれる。

□平成21年、地区を東西に貫く新道「小野原豊中線」が開通し、さらに平成22年9月からコミュニティバスが当該路線を走りだしているため、地域の住民交流が活発化する素地が整った。

■市南東部地区の公共施設は、学校、保育所・幼稚園などの教育施設の他、地区西部に市立病院、総合保健福祉センター、老人福祉センターなどの医療・福祉施設があるのみで、地域住民の活動拠点はごく小規模なコミュニティセンターが設置されるにとどまり、地域住民の交流拠点や生涯学習施設の空白地域となっている。

□地域住民の間では、公共施設の誘致について強い要望活動が続けられており、平成18年12月にはこれらを集約するかたちで、地域住民で構成する「まちづくりを考える協議会」から提言書が市長あて提出された。

■地区北東部には、公共施設として豊川支所、東生涯学習センターがあるが、市役所の支所機能、社会教育施設として生涯学習の支援機能が中心であり、地域交流拠点としての機能が求められる。

課題

■課題1：歴史と国際色豊かな地域特性を活かした住民交流の活性化

□地区東部には周辺に所在する大学の教職員や留学生など外国人市民が多く在住しており、その割合は市全体の2倍にも達している。また、地区を東西に貫く旧西国街道沿いの集落では、歴史と伝統の行事や習慣が継承される生活文化がある。国際文化と地域文化の結節点として、相互に住民交流を活性化させ、地区の魅力をさらに高めることが求められている。

■課題2：子育て世代からシルバー世代まで、すべての世代の地域活動の促進

□市南東部地区は、古くから地域に密着して活動する住民のポテンシャルの高さに加え、新たに子育て世代の流入が見込まれる。さらに主要道路の開通、コミュニティバスの往来により、住民同士の交流が本格化することが期待される。この機会を的確に捉えて、子育てからシルバー世代まで、すべての世代の地域活動と多世代交流を促進する拠点整備が必要である。

□地区北東部は、当該地区の地域交流拠点が必要であり、東生涯学習センターに文化・交流・情報発信機能の機能を新しく追加して拠点整備するとともに、地区南東部の拠点整備により活性化する住民活動をより発展させるため、活動規模の拡大や音楽等の余暇を通じた交流に対応し得る東生涯学習センターを活用し、両地区での住民活動を総合的に支援する必要がある。

■課題3：歴史ある鎮守の森を核とする緑地の整備

□市みどりの基本計画で緑化重点地区に設定する「春日神社」は、古くから地域に親しまれた緑地であり、小野原西特定土地区画整理事業においても、「鎮守の森」としてそのままに留め保全している。今後まち育てを進めるにあたっては、新旧住民の交流とまちに対する愛着と誇りの意識を高めるため、この「鎮守の森」と隣接する周辺土地を、地域のランドマークとして整備する必要がある。

将来ビジョン(中長期)

本地区に対する関連計画の位置付けは以下のとおり。

■第四次箕面市総合計画 みのおプラン2010(平成13年1月策定)

□地域内に大阪外国語大学(現大阪大学箕面キャンパス)や千里国際学園等が立地しており、外国からの留学生・教師が多く居住する国際性豊かな地域である。

□他の地域と比較して公共施設が不足しており、特に国道171号以南での整備が求められている。

□新市街地の整備動向や地域ニーズの把握に努めながら、地域に必要とされる公共施設の検討・整備を進める。

■第五次箕面市総合計画(平成22年策定)

□粟生間谷地区には大阪大学(箕面キャンパス)が、小野原地区には千里国際学園があり、外国人留学生なども多く居住する地域で、東部地区の外国籍市民の比率は市全体の約2倍となっている。

□急速な市街化の進展と整合のとれたバス路線網の整備や子育て環境の整備、新たな地域コミュニティの醸成などが課題となる。

□国道171号以南の小野原地域は、他の地域と比較して公共施設の整備が十分ではないため、改善を図る必要がある。

□小野原西地区への若年層の入居に伴い、子どもの増加が想定されるため、教育や子育ての環境整備に努める。

□大阪大学(箕面キャンパス)や船場地区の企業など多彩なプレーヤーとの連携を強化し、多文化共生社会の実現に向けた国際化施策を推進するとともに、若者同士のネットワークづくり、地域活動への参加による世代間交流など地域活性化施策を進める。

□小野原西地区及び既成市街地の新旧の地域コミュニティの活性化を図るため、生涯学習機能の充実、地域活動への参加を通しての三世代交流などを進める。

□小野原地域における公共施設の整備のあり方を十分に検討し、整備を進める。

■箕面市みどりの基本計画(平成14年)

□市域の空間的構造から、その特性を活かしたみどりのまちづくりを効果的に推進するため、緑化重点地区を設定する。(東部地域：春日神社)

目標を定量化する指標

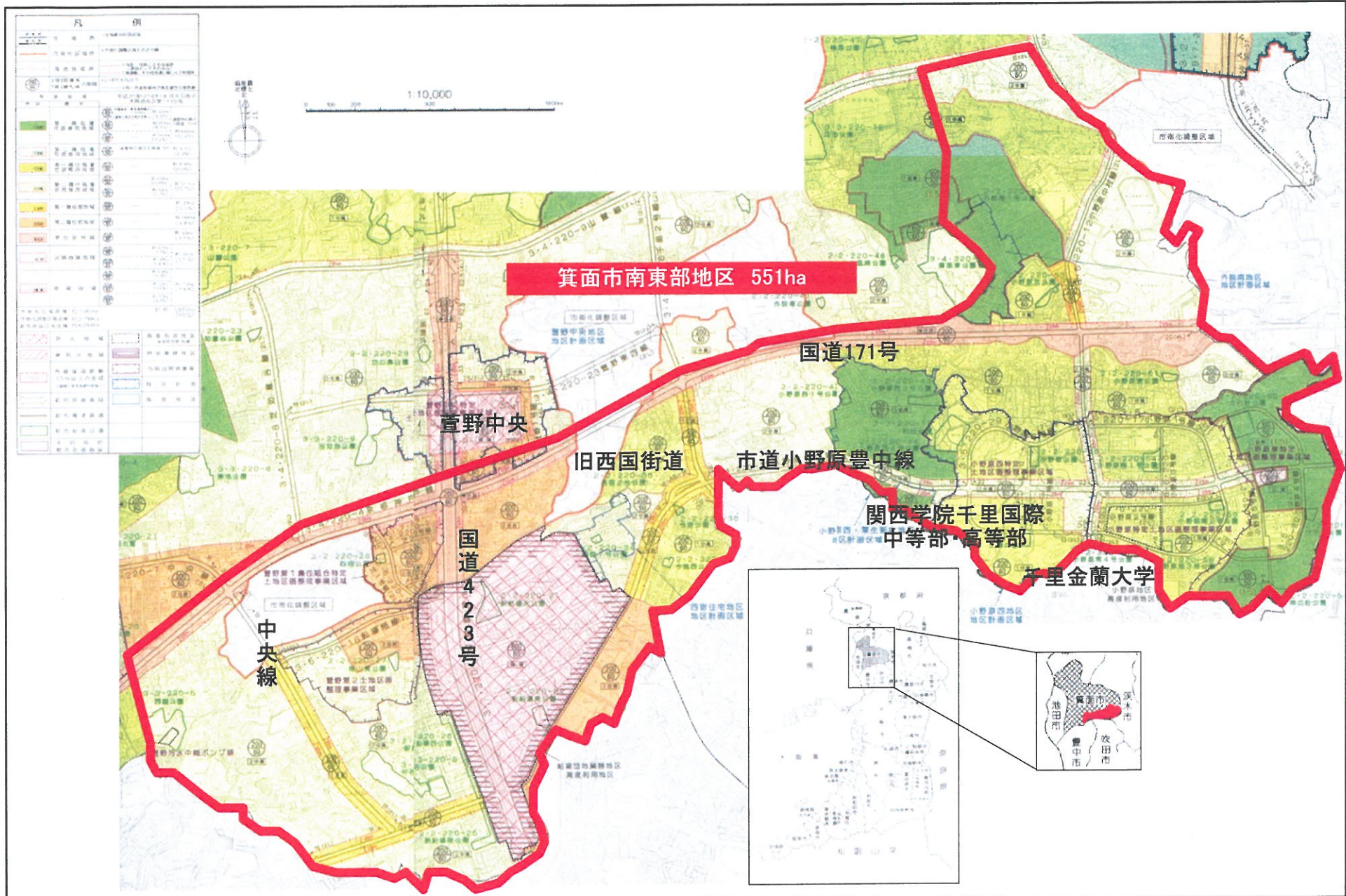
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
国際交流協会で活動しているボランティア数	人	国際交流協会で活動しているボランティア実数	国際交流協会で活動しているボランティアが増加することで、結果的に拠点地域への人の流れが増し、地域の活性化につながる。	197	平成21	320	平成25
子育て支援拠点の利用組数	組/年	地区内在住の利用者の組数	地区内の子育て家庭の利用増加により、交流を促進し、つながりを形成する。	1,731	平成21	2,200	平成25
地域イベントの参加者数(納涼祭・地域運動会・地区敬老会)	人	地区内(豊川南小学校区)における、納涼祭参加人数・運動会参加人数・敬老会参加人数の合計	地域住民の多世代交流を促進することにより、地域イベントの参加者数を増加させ、地域の活性化を図る。	1,800	平成21	2,160	平成25
多世代交流複合拠点利用者のサークル数	組	多世代交流複合拠点で、利用者が自主的活動のために集うサークル数	地域で自主的に活動されているサークル数を評価することで、多世代交流複合拠点を核とした地域の活性化を促進する。	17	平成22	20	平成25
緑地清掃活動の実施回数	回	市交付金制度を活用した地元自治会等による自主的な緑地清掃活動の実施回数	地域住民の自主的な活動の増加により、緑地と地域保全に対する住民意識を高める。	0	平成22	24	平成25
東生涯学習センターで整備する大会議室の利用件数	件/年	東生涯学習センターの大会議室における90人以上での年間利用件数	地区南東部及び北東部での地域交流活動が活性化することで、会議やイベント等多人数を収容できる大会議室の利用が増加し、そこでの出会いが更なる地域住民の交流を促す。	20	平成23	40	平成25

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■整備方針1: 多文化交流及び地域交流拠点施設の整備</p> <p>□多くの外国人市民が居住する特性を活かし、地区東部(小野原西地区)の春日神社周辺において、多文化共生の地域交流センターとして国際交流拠点を整備する。また、地域で活動する社協地区福祉会等の拠点施設を併設することで、地域福祉活動や民生委員・児童委員による相談など、地域住民の安心と支え合いを通じた住民交流の拠点とする。</p>	<p>■高次都市施設(基幹事業/地域交流センター): 箕面市立多文化交流センター</p> <p>□地域創造支援事業(提案事業): 地域福祉活動拠点・箕面市立小野原図書館(併設)</p>
<p>■整備方針2: 子育て支援及び多世代交流拠点施設、地域交流拠点の整備</p> <p>□地区南東部(小野原東地区)において、シルバー世代を中心とした地域住民の交流拠点を整備し、地域住民が集会できる機能を持たせ、地域活動の拠点機能とする。</p> <p>□地区西部において、高齢者から子育て世代まで各世代の活動支援機能を有する地域交流センターを中核に、養護老人ホーム等を複合的に整備し、地域活動と多世代交流の拠点とする。</p> <p>□地区北東部(粟生間谷地区)に位置する東生涯学習センターを改修し、文化・交流・情報発信機能を新しく追加することで、小野原西地区及び小野原東地区に新設する各交流拠点との事業連携により住民の地域交流活動に相乗効果を与えられるよう地域交流拠点として整備する。</p>	<p>■高次都市施設(基幹事業/地域交流センター): 箕面市立小野原多世代地域交流センター</p> <p>■高次都市施設(基幹事業/地域交流センター): 箕面市立多世代交流センター</p> <p>■高次都市施設(基幹事業/地域交流センター): 東生涯学習センター整備</p> <p>□地域創造支援事業(提案事業): 箕面市立多世代交流センター(浴室 他)</p> <p>○養護老人ホーム等(関連事業): 介護老人福祉施設、養護老人ホーム(併設)</p>
<p>■整備方針3: 歴史ある鎮守の森を核とする緑地の整備</p> <p>□緑化重点地区である春日神社の「鎮守の森」周辺土地を、森と一連の緑地として地域交流拠点施設に隣接して整備することで、新旧住民のまちに対する愛着と誇りの意識を高め、住民交流を活性化するとともに、生息するヒメボタルの生息環境を保全する。</p>	<p>■地域生活基盤施設(基幹事業/緑地): 春日神社南側緑地植栽</p>

<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標の達成に向けた各事業効果を調査するため、事業効果分析調査(提案事業)を計画最終年度(平成25年度)に実施する。 ・平成21年に開通した「小野原豊中線」と平成22年9月から走り出したコミュニティバス「オレンジゆずるバス」が、地域における住民交流の活性化を加速させるなどの相乗効果が期待できる。(関連事業) ・地域住民の間では、公共施設の誘致について強い要望活動が続けられており、平成18年12月にはこれらを集約するかたちで、地域住民で構成する「まちづくりを考える協議会」から提言書が市長あて提出 ・本地区における都市再生整備計画の推進に関しては、多様な地域課題の解決に当たる各部局の関係職員が横断的に連携して総合的に推進する必要があるため、市長が特命チームを設置して効果的な計画推進体制を整備している。

箕面市南東部地区(大阪府箕面市)	面積	551 ha	区域	箕面市南東部地区
------------------	----	--------	----	----------



箕面市南東部地区(大阪府箕面市) 整備方針概要図

目標	歴史文化と住民交流・国際交流の結節点を活かしたまちづくり	代表的な指標	国際交流協会のボランティア数 (人)	197	(平成21年度)	→	320	(平成25年度)
			子育て支援拠点の利用組数 (組/年)	1,731	(平成21年度)	→	2,200	(平成25年度)
			地域イベントの参加者数 (人)	1,800	(平成21年度)	→	2,160	(平成25年度)
			施設利用者のサークル数 (組)	17	(平成22年度)	→	20	(平成25年度)
			緑地清掃活動の実施回数 (回)	0	(平成22年度)	→	24	(平成25年度)
			学センの大会議室改修後の実 利用件数 (件/年)	20	(平成23年度)	→	40	(平成25年度)

